

神立橋渡橋式の狀況

島根縣土木課

支那事變勃發して既に一年有餘、銃後生産力の擴充益々必要を加ふる秋、昭和十三年九月十二日西南の清風に夜はほのぼのと明け初めて秋晴れの空は飽く迄碧く澄渡り晴の竣功渡橋式を前に悠然たる神立橋の偉容がくつきりと浮き出す。

遠く神代の往昔より幾多の神話傳説を生んだ巨流斐伊川を横斷し國道十八號簸川郡大津、出西村入會に架かる本橋は昭和十一年七月工事に着手、爾來嘗てなき寒氣に襲はれ或は出水に遭遇し殊に支那事變に依る鐵材暴騰並其の配給困難等あらゆる難關に逢着し而も克く刻苦精勵之を突破し二年二ヶ月の歲月と參拾五萬圓の經費とを費して茲に芽出度誕生を見たものである。

やがて午前十時、參列者三百名着席すれば、錦田齋主祭員を従へて入場、嚴肅裡に祭典が始まれば修披、降神行事、獻饌と進み齋主祝詞奏上終つて玉串奉奠に移り本日の感激にひたりながら三樹島根縣知事、内務省大阪土木出張所長(代理)、縣會議長、山田大津村長、今市町長、田中今市土木管區事務所長、工事請負人の順序で、終了續いて撤饌、昇神行事と全く祭典を終れり。

引續いて竣功式に移り知事式辭、土木課長工事報告、内務省大阪土木出張所長、縣會議長、地元村長代表、來賓總代の祝辭、絲原貴族院議員外二十通の祝電披露、最後に請負人大本百松氏に對し三樹知事工事の艱難を突破、精勵努力克く今日の竣功を見た旨の感謝狀贈呈すれば愈々待望久

しき新橋渡初に参列者一同の心は躍る。

號砲一發、時に午前十一時三十分。先づ神職西詰に現はれ修技を行ひつゝ靜々と進み新橋第一歩を印す、續いて地元大津、出西兩村三小學校兒童千五百名手に手に日章旗を振りかざし愛國行進曲を歌ひながら前進、知事、縣關係者、参列者一同と之に續けば延長四百十七米山陰屈指の長橋は、時ならぬ日の丸の波に埋もれ、此の良き日の盛儀に會せんと、立錐の餘地なき迄も参集した地元村民、十里の長路遠しとせず囂鬧突いて馳参じた遠隔僻地の人々と相俟つて全縣擧げての祝意歡喜は其の頂點に達す。

西詰より始めた渡初は東詰に至り、折返して西詰に歸着。斯くて無事渡初を完了せり。

神立橋改架工事概要

位 置 國道十八號兼川郡出西村入會
大津村入會

延長及幅員 全橋長四一七・二〇米 全幅員八・一〇米

有效幅員七・五〇米 有效面積三、二一九・〇平米

橋 體 型式 グルバー式鐵筋コンクリート橋

説 概 概

支間 二三・一〇米 一八選

荷重等級 内務省規定第二種荷重

橋 面 鐵筋コンクリート床版上へ「アスファルトプロック」鋪裝をなす。

縱斷勾配 百五十分ノ一横斷勾配五十分ノ一

高 欄 瓦斯パイプ及鐵筋コンクリート造

人造石洗出仕上げとす。

扶壁式鐵筋コンクリート造とす。

橋臺二基

左岸橋臺 井筒基礎 高さ 六・四七三米

右岸橋臺 杭打基礎 高さ 七・九七三米

幅 九・九〇米

橋脚十七基

基礎鐵筋コンクリート井筒 高さ 七・〇米のもの六基、七・五〇米のもの一基、九米のもの一

基、一三・五〇米のもの九基

長 八・五〇米 幅 四・〇〇米小列形

橋 脚 上部直徑一・七〇米 高さ 五・四六一

八・八九七米

鐵筋コンクリート柱二本建

取付道路 右岸出西村側延長三五〇・六二米 幅員八・五〇

取付道路

右岸出西村側延長三五〇・六二米 幅員八・五〇

米勾配、〇・五％―三・三三％、左岸大津村側延
長一三五・九五米、幅員七・五〇米勾配、一・三
三％―五・六％

主要材料

鋼材三九・〇吨、鐵筋五七〇・一吨、セメント四
二、四二九袋、砂利五、五一〇・〇粒、砂二、七五
〇粒

工事施行期間

自昭和十一年六月三〇日、至昭和十三年八月
三十一日

工事費

三五〇、〇〇〇圓
上部構造 (高欄共) 一四五、三九〇圓

下部構造 一二〇、九〇〇圓 取付道路一八、一
二六圓

雑工事

三二、二〇四圓 土地買収及物件移
轉補償費四、四四一圓、其の他諸費
二八、九三九圓

勞力延人員

三〇、一八四人
岡山市 大 本 百 松

式 辭

聖戰既ニ一年有餘ヲ閱シ銃後生産力ノ擴充ヲ益々必要トス
ル秋ニ際リ國道十八號神立橋改築ノ工成リ茲ニ嚴肅ナル竣

功ノ式典ヲ舉行致シマスコトハ各位ト共ニ深ク欣快トスル
所デアリマス。

本橋ハ斐伊川ノ下流ニ架セラレ縣内樞要ノ地ヲ連繫スル要
衝ニ當リ交通上極メテ重要ナル地位ヲ占ムルモノデアリマ
ス。

然ルニ舊橋ハ橋齡既ニ盡キ腐朽損傷シ近代交通ノ要求ニ副
ハザルコト甚シキニ至リマシタノデ之ガ改築ハ忽諸ニ付ス
ペカラザル状態トナツタモノデアリマス。

縣ニ於テハ縣民ノ熱望ト交通ノ情勢トニ鑑ミ昭和十一年七
月本橋ノ改築ニ着手シ爾來二年二ヶ月ノ星霜ト參拾有餘萬
圓ノ工費トヲ費シテ銳意工事ノ進捗ニ努メ茲ニ芽出度其ノ
功ヲ竣フルニ至ツタ次第デアリマス。

改築ノ新橋ハ幅員廣濶構造堅牢規模ノ宏壯ナルコト縣下ニ
冠タルモノデアリマスカラ交通ノ絕對安全ヲ確保シ産業ノ
進展ニ寄與スルハ勿論斐伊川ノ巨流ト融和シタル其ノ壯大
ナル偉觀ハ地方ノ名勝トシテ永久ニ其ノ威容ヲ謳ハレルモ
ト衷心歡喜ニ堪ヘヌ所デアリマス。

本工事施行ニ當リ補助金ヲ交付シ且ツ絶大ナル援助ヲ與ヘラレタル内務當局及多額ノ工費ヲ分擔シテ協力セラレタル地元關係町村並工事竣功ノ爲日夜精勵努力セラレタル工事關係者各位ニ對シ此ノ機會ニ於テ深甚ナル感謝ノ意ヲ表スルモノデアリマス。

關係地方民諸氏ハ本橋ノ竣功ヲ機トシ協力一致益々之ガ利用ノ實ヲ擧ゲ地方ノ興隆ニ貢獻シ仍テ以テ長ヘニ其ノ效果ヲ收メラレムコトヲ切ニ希望スル次第デアリマス。
之ヲ以テ式辭ト致シマス。

昭和十三年九月十二日

島根縣知事 三 樹 樹 三

工 事 報 告

神立橋改築工事竣功ノ式典ヲ舉行セラレルニ當リ工事ノ概況ヲ報告致シマスコトハ私ノ寔ニ光榮トスル所デアリマス。

本橋ハ國道十八號ガ斐伊川ヲ横斷スル所即出西村、大津村ヲ結ブ要衝ニ架設セラレ延長四百十七米本縣屈指ノ長橋デ

縣民ノ最モ關心ヲ要スル重要橋デアリマスカラ之ガ計畫ニ付キマシテハ其ノ期待ニ背カザル様相當苦心致シタノデアリマス。

先ツ橋梁ノ位置ニ就テハ斐伊川改修工事ニ依ル堤防ノ高サト國道トノ取付ヲ考慮シテ之ヲ決定シ次ニ永久橋トシテ交通ノ絶對安全ヲ確保スル爲橋臺並橋脚ヲ鐵筋コンクリート造トシ橋體ノ構造ハ近代のナル「ゲルバー」式トシ幅員ハ有效七米五〇橋面ヲ「アスファルトブロック」鋪裝トスル等遺憾ナキヲ期シタ次第デアリマス。

工事ニ使用シマシタ主ナル材料ハ鋼材三十九噸、鐵筋五百七十噸、セメント四萬二千四百二十九袋、砂利五千五百十粒、砂二千七百五十粒、アスファルトブロック三千二百二十九坪デ職工人夫ノ出役延人員ハ三萬百八十四人ニ達シテ居リマス。

工費ハ上部及下部構造並取付道路費トシテ二拾九萬四千四百拾六圓、土地買収及補償費四千四百拾壹圓、雜工事費參萬貳千貳百四圓、其ノ他諸費貳萬八千九百參拾九圓、

合計參拾五萬圓ヲ要シタ次第アリマス。

顧レバ昭和十一年七月大工事成就ノ意氣ニ燃エテ着手シ以
來二年二月ノ工事期間中ニハ嘗テナキ寒氣ニ襲ハレ或ハ
出水ニ遭遇シ殊ニ日支事變ニ依ル鐵材ノ暴騰並其ノ配給ノ
困難ニ際會致シマシタガ工事請負者並ニ從業者ノ刻苦精勵
ト各方面ノ理解アル御援助ニ依リ茲ニ豫定ノ竣功ヲ見ルニ
至リマシタコトハ誠ニ感謝措ク能ハザル所デアリマス。
以上概況ヲ述ベテ工事ノ報告ト致シマス。

昭和十三年九月十二日

島根縣土木課長 地方技師 中村 滿 輔

祝 辭

神立橋工竣リ本日茲ニ其式典ヲ舉行セラルルハ洵ニ同慶ニ
堪ヘザル所ナリ

惟フニ近時當縣ニ於ケル各種産業ノ飛躍的興隆ニ伴ヒ縣下
ヲ縦貫スル國道第十八號路線ノ交通量ハ頓ニ増大スルニ會
ヒ沿道各地亦整備セラルトコロ多シ。然ルニ本橋ハ之ガ
幹線ヲ繫ク重要橋梁タルニ拘ラズ幅員極メテ狭少ニシテ而

モ老齡ナル木橋ナリシガ故ニ腐損甚シク最近殊ニ發達セル
交通機關ノ現況ニ照シ之ニ順應シ得ザル狀勢ヲ呈シタリ。
斯ルガ故ニ沿道ノ諸賢夙ニ之ガ改設ヲ要望セラルルノ切ナ
ルモノアリシガ偶斐伊川改修ノ計畫セラルルニ及ビ本橋モ
亦當上ダノ必要ヲ生ズルニ至レルヲ以テ縣當局意ヲ決シ縣
民囑望ノ許ニ昭和十一年着工セラレテ以來歲ヲ閱スルコト
二年其間官民各位ノ一致協力ト從業員諸氏ノ不撓不屈ノ努
力トハ克ク本日ノ成果ヲ見タリト謂フベシ。

今ヤ斐伊川改修モ工半ヲ過キ治水ノ利漸ク其ノ功ヲ奏セン
トスルトキ此ノ偉觀ニ接スルハ洵ニ畫龍點睛ノ妙ヲ得タリ
ト謂フベク相伴ニ縣下ノ産業ヲ裨益シテ大ナルモノアルベ
シ
茲ニ一言ヲ述ベテ祝辭ニ代フ

昭和十三年九月十二日

内務省大阪土木出張所長 高 西 敬 義